

前回委員会における需給・価格見通しと実績の対比

1. 前回の委員会（平成21年2月27日）で示した春キャベツの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（5月下旬時点）	備考
春キャベツ (4月～6月)	<p>【事務局資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 供給計画：対前年比101 主産地での好天による順調な生育及び長期天気予報により、<u>前年を上回る出荷が予想される。</u> <p>【生産出荷団体資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>生育状況は、圃場で菌核病の発生が見られているが、概ね順調。</u> 3月の出荷量は少な目となり、4月中旬より出荷の最盛期に入る見込み。 <p>【委員コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 春系キャベツの<u>生育は順調で入荷量も潤沢。</u>気温上昇による品質劣化の可能性もあるため<u>相場は不安定含み。</u> 全体の消費が鈍っているため、現在主流のバラ、カットの販売形態では<u>価格的に大きな期待はできない。</u> 	<p>(入荷量)</p> <p>3月の天候不順の影響による主産地の神奈川における5月上旬の切り上がり及び千葉の生育遅れ、またこれに伴う小玉化傾向等により、産地全体の出荷量は、4月・5月を通じて低調に推移。</p> <p>ただし、東京都中央卸売市場には価格形成の期待から、入荷が集中した。(4・5月の東京都中央卸売市場入荷量の平年比：103、対前年比：97)</p> <p>(価格)</p> <p>3月中旬以降入荷が少なかったため価格は上げ基調で推移した。その後も、昨年のような特定日の入荷集中がなかったため比較的高い水準を維持した。</p> <p>加えて、4・5月は年間を通じて最も需要のある時期であるため、多くの量販店が集客商材としたことから、価格は4・5月を通じて堅調に推移し、<u>全体として平年を大きく上回った。</u>(卸からの聞き取り。4・5月の東京都中央卸売市場卸売価格の平年比：131)</p>	

注1) 「前回委員会での見通し」については、前回委員会における事務局資料、生産出荷団体資料及び委員意見等をもとに作成。

注2) 「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1)

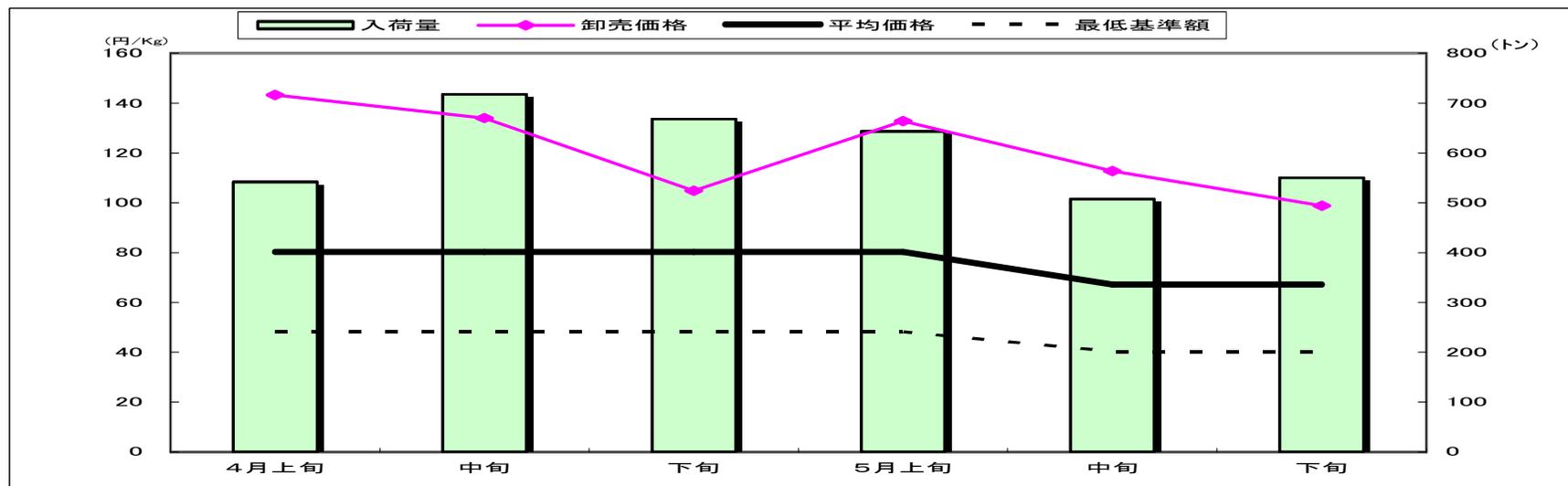
○ 21年産春キャベツの入荷量と価格の平年比（平年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	4月			5月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	105	111	104	88	105	104	103
価格	137	119	109	171	137	121	131

(注) 平年とは、平成16～20年の5か年の平均をいう。

(参考2)

○ 21年産春キャベツの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場、平均価格は過去9か年。入荷量は各旬における平均日量）



2. 前回の委員会（平成 21 年 2 月 27 日）で示したたまねぎの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（5月下旬時点）	備考
たまねぎ (4月～6月)	<p>【事務局資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 供給計画：対前年比 1 0 2 主産地での好天による順調な生育及び長期天気予報により、<u>前年並みの出荷を予想</u>。 <p>【生産出荷団体資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>生育状況は</u>、低温、日照不足により <u>平年より 1 旬程度の遅れ</u>。 出荷は、極早生への作付移行により 4 月上旬より増加し、5 月上旬頃最盛期を迎え、<u>出荷量は平年を上回る見込み</u>。 <p>【委員コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道産が 4 月まで出荷見込であることに加え、府県産の面積も対前年比増で主産地佐賀の生育も良いことから、<u>出荷量は前年比増</u>。 <u>価格は</u>、不況下で一層販売環境が厳しく、また、円高の影響で輸入ものが入る余地があることもあり、<u>安値基調</u>。 	<p>(入荷量)</p> <p>3 月の西日本における少雨及び肥大時期の低温の影響による小玉化、並びに主産地の佐賀における作型の変更（早生→極早生）により、全体としては<u>平年</u>（過去 5 か年平均をいう。以下同じ。）<u>を下回った</u>。（卸からの聞き取り。4・5 月の東京都中央卸売市場入荷量の平年比：9 1）</p> <p>(価格)</p> <p>上記の理由による出荷量の減少に伴い、<u>全体としては平年を上回った</u>。（4・5 月の東京都中央卸売市場卸売価格の平年比：1 1 5）</p>	

注 1) 「前回委員会での見通し」については、前回委員会における事務局資料、生産出荷団体資料及び委員意見等をもとに作成。

注 2) 「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1)

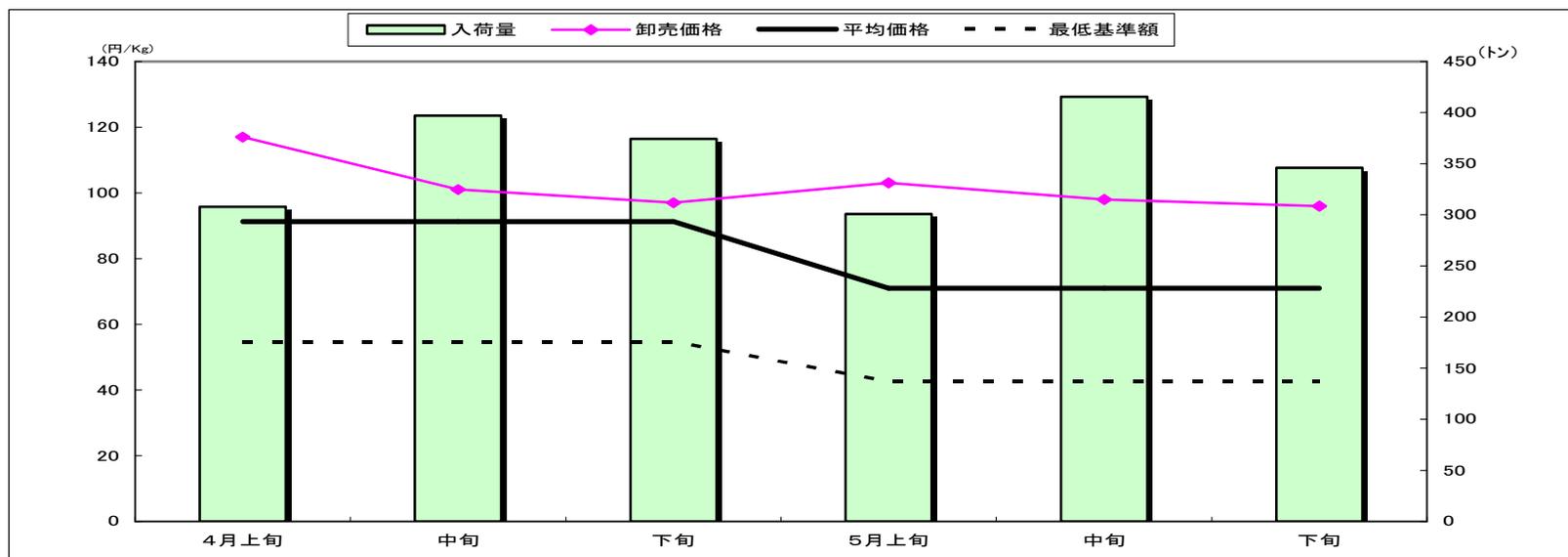
○ 21年産たまねぎの入荷量と価格の平年比（平年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	4月			5月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	103	117	78	80	97	77	91
価格	111	96	110	128	128	105	115

(注) 平年とは、平成16~20年の5か年の平均をいう。

(参考2)

○ 21年産たまねぎの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場、平均価格は過去9か年。入荷量は各旬における平均日量）



3. 総括

前回の委員会において、春キャベツの入荷量は「対前年増」で価格は「安値基調」と見通したが、入荷量は、3月の天候不順による小玉化や入荷時期のズレ等による品薄感から、産地全体の出荷量は4月・5月を通じて低調に推移。ただし、東京都中央卸売市場には価格形成の期待から入荷が集中した。また、価格は、3月以降比較的高い水準を維持し、4・5月は年間を通じて最も需要のある時期であるため、多くの量販店が集客商材としたことから、平年を大きく上回った。

たまねぎの入荷量は「対前年増」で価格は「安値基調」と見通したが、入荷量は3月の天候不順による小玉化や作型の変更等により平年を下回ったことから、価格は全体的に平年を上回ることとなった。